

# 2021年度第2四半期（4～9月）決算について

2021年10月28日  
北海道電力株式会社

ともに輝く明日のために。  
Light up your future.



## — 目 次 —

□第2四半期 連結経営成績・財政状態	．．．	2
□第2四半期 連結決算の概要	．．．	3
□2021年度 連結業績予想	．．．	4
□2021年度 中間配当・期末配当予想	．．．	6
□参考資料	．．．	7

# ■ 第2四半期 連結経営成績・財政状態

## 経営成績（累計）

（単位：億円）

	当第2四半期 (A)	前第2四半期 (B)※	増減 (A)-(B)	対前年同期 増減率%
売上高	2,734	2,572	161	6.3
営業利益	271	335	△ 63	△ 19.1
経常利益	227	279	△ 52	△ 18.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	174	241	△ 66	△ 27.6
1株当たり四半期純利益	81 <sup>円</sup> 71 <sup>銭</sup>	114 <sup>円</sup> 07 <sup>銭</sup>	△ 32 <sup>円</sup> 36 <sup>銭</sup>	

※ 2021年度第1四半期から、収益認識会計基準等の適用に伴い、電気事業会計規則が改正され、再生可能エネルギー固定価格買取制度に関する影響額については、収益・費用計上の対象外となりました。

本資料に記載の2020年度第2四半期実績については、上記変更を遡及適用し組み替えて表示しております。

## 財政状態

（単位：億円）

	当第2四半期末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
総資産	20,027	20,016	11
純資産	3,021	2,897	124
自己資本比率	14.5%	13.8%	0.7%

売上高 (増収)	積極的な卸販売の実施に伴う他社販売電力量の増加などにより、 前年同期に比べ161億円増加の2,734億円となりました。
経常利益 (減益)	他社販売電力量の増加や発電設備に係る修繕費の減少などはありませんでしたが、 本年4月以降の燃料価格の上昇に伴う収支の悪化などにより、 前年同期に比べ52億円減少の227億円となりました。
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	前年同期に比べ66億円減少の174億円となりました。

## ■ 2021年度 連結業績予想

2021年度通期の連結業績につきましては、至近の燃料価格上昇の影響などを反映し、2021年7月30日に公表した連結業績予想を修正いたしました。

(単位：億円、億kWh)

	2021年度見通し			今回見通し 対前年度増減(※)
	今回公表 (A)	7月公表 (B)	増減 (A)-(B)	
売上高	6,330程度	6,000程度	330程度	480程度
営業利益	200程度	330程度	△130程度	△340程度
経常利益	110程度	230程度	△120程度	△300程度
親会社株主に帰属する 当期純利益	90程度	200程度	△110程度	△270程度
(対前年度増減率) 小売販売電力量	(△1.1%程度) 224程度	(△1.1%程度) 224程度	同程度	△3程度

2021年度第1四半期から、収益認識会計基準等の適用に伴い、電気事業会計規則が改正され、再生可能エネルギー固定価格買取制度に関する影響額について、収益・費用計上の対象外となります。

※なお、対前年度増減は、2020年度実績について上記変更を適用したものと仮定して算定しております。

【新型コロナウイルス感染症の影響】 2021年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、北海道内の景気は引き続き厳しい状況にあるため、小売販売電力量において、△4億kWh程度と見込んでいます。

### 【主要諸元】

為替レート (円 / \$)	110程度	110程度	同程度	4程度
原油CIF価格 (\$ / bl)	75.0程度	70.0程度	5.0程度	32.0程度

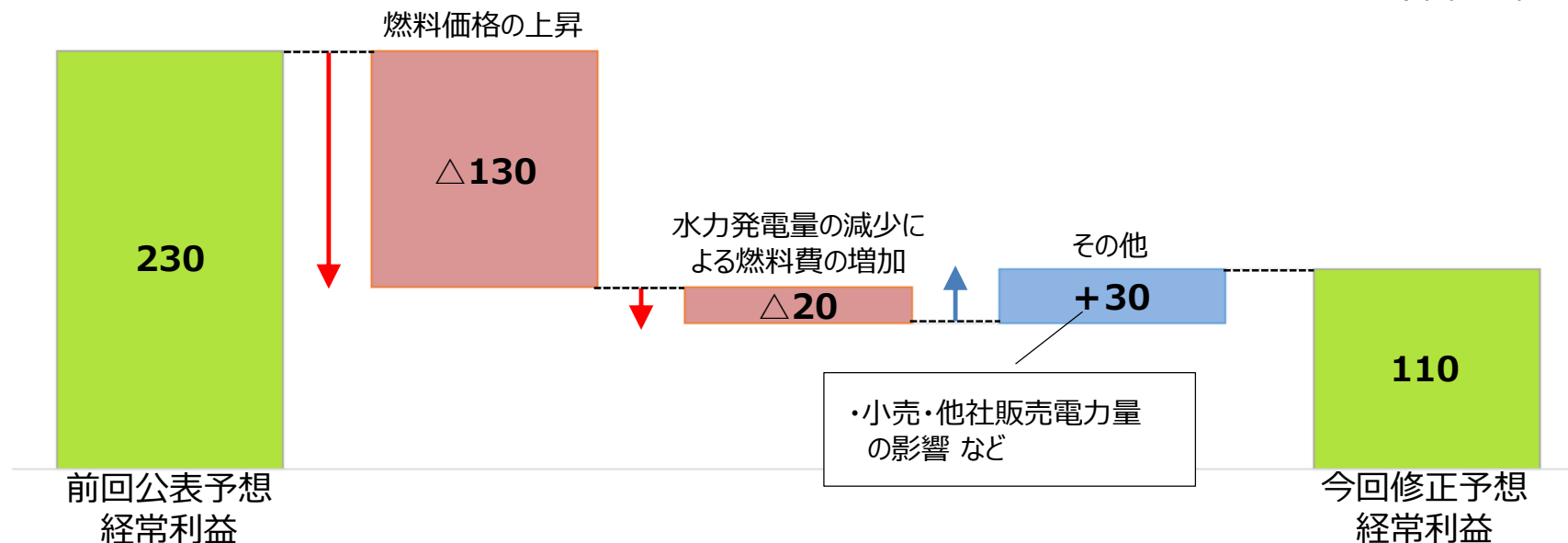
※10月以降、為替レートは110円/\$程度、原油CIF価格は80\$/bl程度と想定しております。

# ■ 2021年度 連結業績予想の修正概要

小売販売電力量	当第2四半期では概ね計画どおりに推移していることから、7月公表値と同程度となる見通しです。
売上高	積極的な卸販売の実施などによる他社販売電力量の増加や燃料価格の上昇に伴う燃料費調整額の増加などにより、7月公表値に比べ330億円増加の6,330億円程度となる見通しです。
経常利益	燃料価格の上昇に伴う収支の悪化などにより、7月公表値に比べ120億円減少の110億円程度となる見通しです。

## <連結業績予想の修正内容について>

(単位：億円程度)



# ■ 2021年度 中間配当・期末配当予想

- ・2021年度中間配当につきましては、本日開催の取締役会において、前回公表した配当予想のとおり、普通株式は1株当たり10円、B種優先株式は定款の定めに従い1株当たり1,500,000円と決定いたしました。
- ・2021年度の期末配当予想につきましては、7月公表から変更はありません。

## 【1株当たり配当金】

	普通株式			B種優先株式		
	中間	期末	年間	中間	期末	年間
2020年度 (実績)	5円	15円	20円	1,500,000円	1,500,000円	3,000,000円
2021年度	10円	(10円)	(20円)	1,500,000円	(1,500,000円)	(3,000,000円)

※2021年度の（ ）内は予想値。

## ■ 参考資料

- ・連結収支比較表（全体）
- ・連結対象会社
- ・販売電力量（連結）
- ・供給電力量（連結）
- ・連結収支比較表（収益）
- ・連結収支比較表（費用・経常利益）
- ・連結セグメント情報
- ・連結キャッシュ・フロー計算書
- ・連結経常利益の変動要因（対前年同期比較）

### 業績予想

- ・連結経常利益の変動要因（対前年度比較）



# 連結決算－収支比較表

(単位：億円)

		当第2四半期 連結累計期間 (A)	前第2四半期 連結累計期間 (B)	増減 (A)-(B)	対前年同期増減率%
経常 収益	営業収益（売上高）	2,734	2,572	161	6.3
	電気事業営業収益	2,551	2,403	148	6.2
	その他事業営業収益	183	169	13	8.1
	営業外収益	30	7	22	283.6
合計		2,764	2,580	184	7.1
経常 費用	営業費用	2,463	2,237	225	10.1
	電気事業営業費用	2,300	2,084	215	10.4
	その他事業営業費用	163	153	10	6.5
	営業外費用	74	63	10	16.8
合計		2,537	2,301	236	10.3
[営業利益]		[271]	[335]	[△ 63]	[△ 19.1]
経常利益		227	279	△ 52	△ 18.7
渴水準備金引当又は取崩し		△ 2	△ 5	2	－
税金等調整前四半期純利益		229	285	△ 55	△ 19.3
法人税等		53	43	9	22.1
四半期純利益		176	241	△ 64	△ 26.8
非支配株主に帰属する四半期純損益		1	△ 0	1	－
親会社株主に帰属する四半期純利益		174	241	△ 66	△ 27.6
(参考)	四半期包括利益	168	258	△ 90	△ 34.9

連結子会社		持分法適用会社
北海道電力ネットワーク(株)	北海道電気工事(株)	北電総合設計(株)
北電興業(株)	北海道パワーエンジニアリング(株)	(株)ほくでんアソシエ
苫東コールセンター(株)	ほくでんエコエナジー(株)	石狩LNG棧橋(株)
ほくでんサービス(株)	北海道総合通信網(株)	
ほくでん情報テクノロジー(株)	北海道電力コクリエーション(株)	

# 連結決算－販売電力量

・小売販売電力量は、引き続き積極的な営業活動を展開しておりますが、他事業者への契約切り替えの影響などから、合計で9,923百万kWh、対前年伸び率△1.9%となりました。

(新型コロナウイルス感染症による影響：△3億kWh程度→△2億kWh程度)

・他社販売電力量は、積極的な卸販売の実施に伴う販売量の増加などから、合計で3,385百万kWh、対前年伸び率103.4%となりました。

(単位：百万kWh)

		当第2四半期 連結累計期間 (A)	前第2四半期 連結累計期間 (B)	増減 (A)-(B)	対前年同期増減率%	
小 売	低 圧	電 灯	3,761	3,927	△ 166	△ 4.2
		電 力	645	652	△ 7	△ 1.2
		計	4,406	4,579	△ 173	△ 3.8
	高圧・特別高圧		5,478	5,507	△ 29	△ 0.5
	小計(※1)		9,884	10,086	△ 202	△ 2.0
	その他(※2)		39	33	6	18.1
	合計		9,923	10,119	△ 196	△ 1.9
他社販売電力量		3,385	1,666	1,719	103.4	
小売・他社販売電力量合計		13,308	11,785	1,523	12.9	

※1 小計欄は、北海道電力(株)の販売電力量を示す。

※2 その他欄は、北海道電力ネットワーク(株)および北海道電力コクリエーション(株)の販売電力量を示す。

- ・ 泊発電所は全基停止していることに加え、出水率が88.7%と平年を下回りましたが、供給設備の適切な運用により、安定した供給を維持することができました。

(単位：百万kWh)

		当第2四半期 連結累計期間 (A)	前第2四半期 連結累計期間 (B)	増減 (A)-(B)	対前年同期増減率%
発電電力量	(出水率%) 水 力	(88.7%) 1,972	(86.4%) 2,012	( 2.3%) △ 40	△ 2.0
	火 力	7,402	7,454	△ 52	△ 0.7
	(設備利用率%) 原 子 力	( - ) -	( - ) -	( - ) -	-
	新エネルギー等	42	57	△ 15	△ 27.6
	計	9,416	9,523	△ 107	△ 1.1
他社受電電力量※		5,062	3,446	1,616	47.0
揚水用		△ 134	△ 121	△ 13	11.0
合 計		14,344	12,848	1,496	11.7

※他社受電電力量には、連結子会社の北海道パワーエンジニアリング(株)およびほくてんエコエナジー(株)からの受電電力量が含まれている。

# 連結収支比較表（収益）

（単位：億円）

	当第2 四半期連結 累計期間 (A)	前第2 四半期連結 累計期間 (B)	増 減 (A)-(B)	対前年同期 増減率%	主 な 増 減 要 因
売 上 高	2,734	2,572	161	6.3	
電気事業営業収益	2,551	2,403	148	6.2	
2 社 合 計 ※					
電 灯 ・ 電 力 料	1,992	2,070	△ 78	△ 3.8	・小売販売電力量等の減少
そ の 他	564	338	225	66.5	
地 帯 間 ・ 他 社 販 売 電 力 料 (再 掲)	325	142	183	128.3	・地帯間・他社販売電力料の増加 ・託送収益の増加
託送収益(再掲)	206	171	35	20.6	
子会社・連結修正	△ 5	△ 6	1	—	
その他事業営業収益	183	169	13	8.1	
営 業 外 収 益	30	7	22	283.6	・貸倒引当金戻入額の増加
経 常 収 益	2,764	2,580	184	7.1	

※ 2 社合計は、北海道電力(株)と北海道電力ネットワーク(株)の合計（内部取引消去後）の実績を表示している。

# 連結収支比較表（費用・経常利益）

(単位：億円)

		当第2 四半期連結 累計期間 (A)	前第2 四半期連結 累計期間 (B)	増減 (A)-(B)	対前年同期 増減率%	主な増減要因
電気事業営業費用		2,300	2,084	215	10.4	
2 社 合 計 ※	人件費	274	280	△ 5	△ 2.0	・退職給付費用の減少
	燃料費	437	351	85	24.2	【増加要因】 ・燃料価格の上昇
	購入電力料	421	255	166	65.2	・他社販売電力量の増加
	修繕費	241	264	△ 23	△ 8.8	・発電設備に係る修繕費の減少
	減価償却費	349	355	△ 5	△ 1.7	
	その他費用	598	583	14	2.5	・情報処理費用の増加
子会社・連結修正		△ 22	△ 6	△ 15	—	
その他事業営業費用		163	153	10	6.5	
営業外費用		74	63	10	16.8	
	支払利息(再掲)	47	54	△ 6	△ 11.7	・金利の低下
経常費用		2,537	2,301	236	10.3	
経常利益		227	279	△ 52	△ 18.7	

※ 2社合計は、北海道電力(株)と北海道電力ネットワーク(株)の合計（内部取引消去後）の実績を表示している。

## 連結決算－セグメント情報

- ・北海道電力セグメントの売上高は、前年同期に比べ65億円増加の2,518億円となり、セグメント損益は、他社販売電力量の増加や発電設備に係る修繕費の減少などはありませんでしたが、本年4月以降の燃料価格の上昇に伴う収支の悪化などにより、前年同期に比べ92億円減少の217億円の経常利益となりました。
- ・北海道電力ネットワークセグメントの売上高は、前年同期に比べ108億円増加の1,106億円となり、セグメント損益は、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴う電力需要の増加などにより、前年同期に比べ損失幅が21億円縮小したものの、12億円の経常損失となりました。

(単位：億円)

	当第2四半期 連結累計期間 (A)	前第2四半期 連結累計期間 (B)	増減 (A)-(B)
<b>売上高</b>	2,734	2,572	161
北海道電力	2,518	2,453	65
北海道電力ネットワーク	1,106	997	108
その他※1	582	577	4
調整額※2	△1,472	△1,456	△16
<b>セグメント損益（経常損益）</b>	227	279	△52
北海道電力	217	310	△92
北海道電力ネットワーク	△12	△34	21
その他※1	36	9	26
調整額※2	△14	△6	△8

※1「その他」は、「北海道電力」および「北海道電力ネットワーク」セグメント以外の、その他の連結子会社等の実績である。

※2「調整額」は、連結決算におけるセグメント間取引の消去額である。

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の減少や燃料価格の上昇による棚卸資産の増加などにより、前年同期に比べ355億円減少の140億円の収入となりました。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ39億円減少の317億円の支出となりました。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額が増加したことなどにより、前年同期に比べ14億円減少の60億円の収入となりました。
- ・以上の結果、現金及び現金同等物は、期首に比べ116億円減少の721億円となりました。

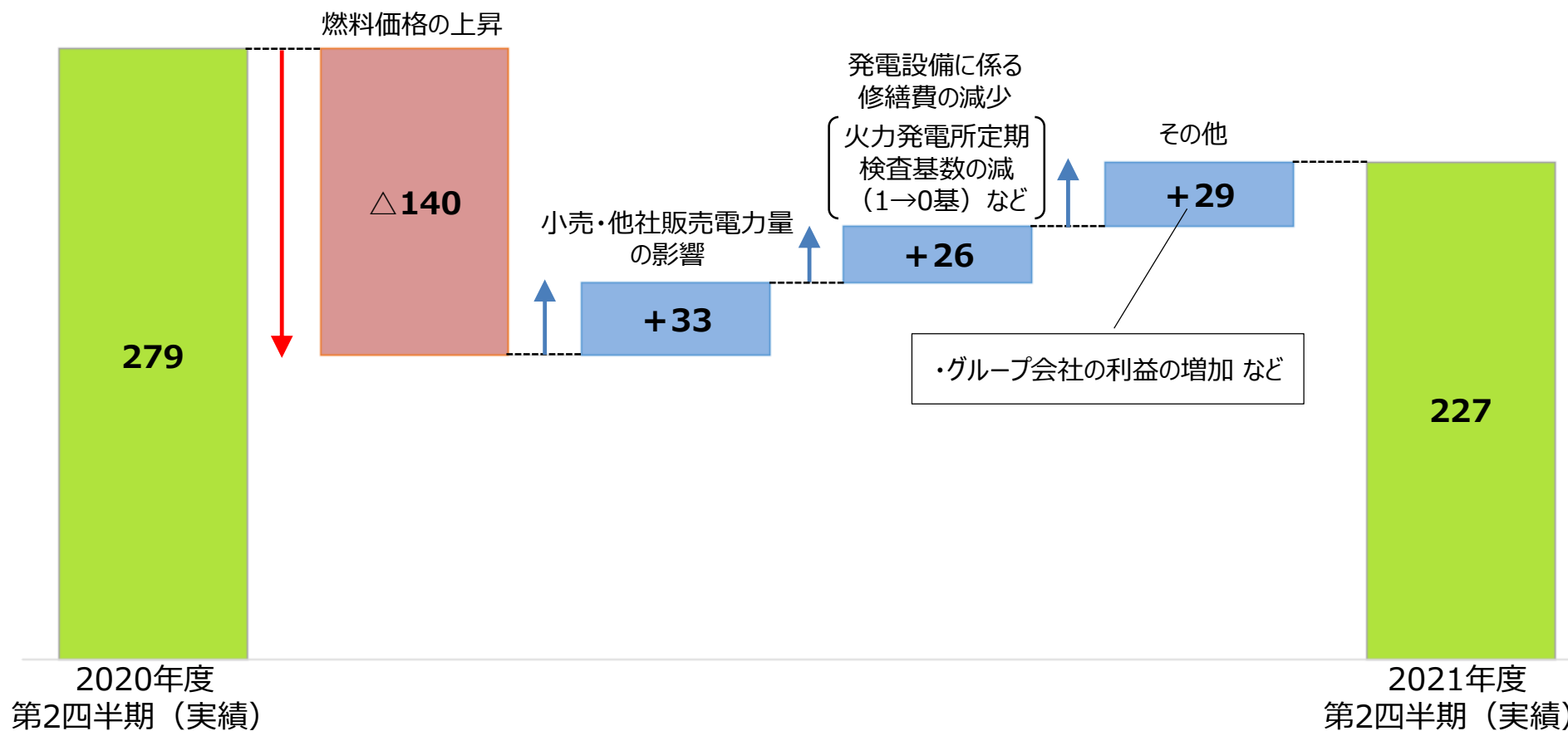
(単位：億円)

	当第2四半期 連結累計期間 (A)	前第2四半期 連結累計期間 (B)	増減 (A)-(B)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	140	496	△355
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△317	△357	39
差引 C F〔I+II〕	△176	138	△315
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	60	75	△14
IV. 現金及び現金同等物の増減額〔I+II+III〕	△116	214	△330
V. 現金及び現金同等物の期末残高	721	789	△68



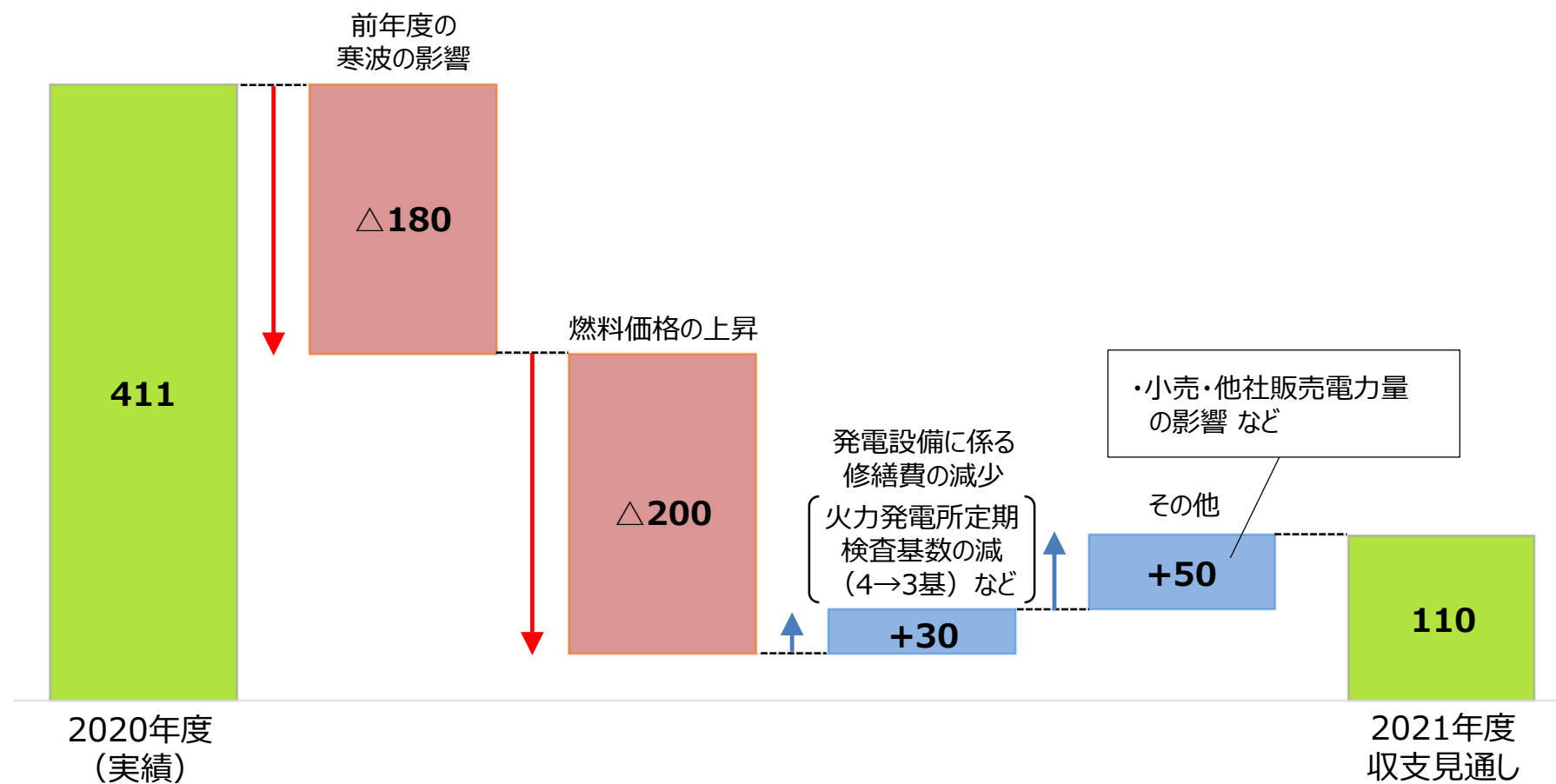
# 第2四半期（連結決算）－経常利益の変動要因（対前年同期比較）

（単位：億円）



# 連結業績予想－経常利益の変動要因（対前年度比較）

（単位：億円、億円程度）





## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月28日

上場会社名 北海道電力株式会社 上場取引所 東 札  
 コード番号 9509 U R L <https://www.hepco.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤井 裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部決算グループ (氏名) 磯野 高史 T E L 011-251-1111  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日  
 配当支払開始予定日 2021年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	273,469	6.3	27,118	△19.1	22,703	△18.7	17,481	△27.6
2021年3月期第2四半期	257,284	△8.2	33,511	130.8	27,937	207.1	24,146	204.5

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 16,820百万円 (△34.9%) 2021年3月期第2四半期 25,837百万円 (204.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	81.71	—
2021年3月期第2四半期	114.07	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用に伴い、「電気事業会計規則」が改正され、第1四半期連結会計期間の期首から再生可能エネルギー固定価格買取制度に関する影響額について収益・費用計上の対象外となります。なお、対前年同四半期増減率および2021年3月期第2四半期実績については、当該変更を遡及適用した後の数値にしております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	2,002,776	302,161	14.5
2021年3月期	2,001,650	289,733	13.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 289,484百万円 2021年3月期 277,102百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	5.00	—	15.00	20.00
2022年3月期	—	10.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

## 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	633,000	8.2	20,000	△62.8	11,000	△73.3	9,000	△75.1	36.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年10月28日)公表いたしました「2021年度第2四半期(4～9月)決算について」のP.4「2021年度 連結業績予想」およびP.5「2021年度 連結業績予想の修正概要」ならびに「業績予想(連結)の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用に伴い、「電気事業会計規則」が改正され、第1四半期連結会計期間の期首から再生可能エネルギー固定価格買取制度に関する影響額について収益・費用計上の対象外となります。なお、対前期増減率は、2021年3月期の売上高を当該変更を適用したものと仮定して算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 - 社(社名) 、除外 - 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.6「1. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	215,291,912株	2021年3月期	215,291,912株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	9,975,325株	2021年3月期	9,971,642株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	205,318,360株	2021年3月期2Q	205,501,417株

(注) 当社は、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を導入しており、期末自己株式数には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託口が保有する当社株式(2022年3月期2Q 327,000株、2021年3月期 一株)が含まれております。また、当該信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2022年3月期2Q 109,000株、2021年3月期2Q 一株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項につきましては、本日(2021年10月28日)公表いたしました「2021年度第2四半期(4~9月)決算について」のP.4「2021年度 連結業績予想」およびP.5「2021年度 連結業績予想の修正概要」ならびに「業績予想(連結)の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

B種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	1,500,000.00	—	1,500,000.00	3,000,000.00
2022年3月期	—	1,500,000.00			
2022年3月期(予想)			—	1,500,000.00	3,000,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

○添付資料の目次

1. 四半期連結財務諸表及び主な注記	2
(1) 四半期連結貸借対照表	2
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6

## 1. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
固定資産	1,773,810	1,754,743
電気事業固定資産	1,202,725	1,176,815
水力発電設備	203,730	201,959
汽力発電設備	202,765	195,762
原子力発電設備	166,332	157,095
送電設備	182,371	178,856
変電設備	106,253	104,261
配電設備	289,311	289,561
業務設備	45,589	42,725
その他の電気事業固定資産	6,370	6,592
その他の固定資産	52,418	52,934
固定資産仮勘定	164,648	172,637
建設仮勘定	150,537	158,195
除却仮勘定	146	476
使用済燃料再処理関連加工仮勘定	13,965	13,965
核燃料	231,162	231,560
加工中等核燃料	231,162	231,560
投資その他の資産	122,854	120,795
長期投資	52,144	51,937
退職給付に係る資産	19,475	19,980
繰延税金資産	40,822	38,723
その他	11,386	11,211
貸倒引当金(貸方)	△974	△1,058
流動資産	227,839	248,033
現金及び預金	83,767	72,132
受取手形、売掛金及び契約資産	73,107	59,817
棚卸資産	31,013	41,890
その他	42,878	75,247
貸倒引当金(貸方)	△2,926	△1,055
合計	2,001,650	2,002,776

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債及び純資産の部</b>		
負債の部		
固定負債	1,376,655	1,396,755
社債	690,000	725,000
長期借入金	534,670	518,915
退職給付に係る負債	35,926	35,782
資産除去債務	104,612	105,815
その他	11,446	11,242
流動負債	333,730	302,623
1年以内に期限到来の固定負債	122,642	117,072
短期借入金	39,900	45,590
コマーシャル・ペーパー	10,000	-
支払手形及び買掛金	48,457	48,995
未払税金	18,798	13,909
その他	93,932	77,056
特別法上の引当金	1,530	1,235
濁水準備引当金	1,530	1,235
負債合計	1,711,916	1,700,615
純資産の部		
株主資本	274,004	287,246
資本金	114,291	114,291
資本剰余金	47,784	47,349
利益剰余金	130,228	143,472
自己株式	△18,300	△17,866
その他の包括利益累計額	3,097	2,237
その他有価証券評価差額金	2,369	1,421
繰延ヘッジ損益	-	5
退職給付に係る調整累計額	727	810
非支配株主持分	12,631	12,677
純資産合計	289,733	302,161
合計	2,001,650	2,002,776



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業収益	257,284	273,469
電気事業営業収益	240,307	255,119
その他事業営業収益	16,976	18,349
営業費用	223,773	246,351
電気事業営業費用	208,456	230,032
その他事業営業費用	15,316	16,318
営業利益	33,511	27,118
営業外収益	786	3,015
受取配当金	381	417
受取利息	75	8
貸倒引当金戻入額	61	1,709
その他	267	879
営業外費用	6,360	7,430
支払利息	5,410	4,778
持分法による投資損失	181	104
その他	767	2,548
四半期経常収益合計	258,070	276,485
四半期経常費用合計	230,133	253,781
経常利益	27,937	22,703
過水準備金引当又は取崩し	△562	△294
過水準備金引当取崩し(貸方)	△562	△294
税金等調整前四半期純利益	28,500	22,997
法人税、住民税及び事業税	4,343	2,751
法人税等調整額	45	2,605
法人税等合計	4,388	5,357
四半期純利益	24,111	17,640
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△35	158
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,146	17,481

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	24,111	17,640
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	705	△920
繰延ヘッジ損益	△5	5
退職給付に係る調整額	1,026	94
その他の包括利益合計	1,726	△820
四半期包括利益	25,837	16,820
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,898	16,621
非支配株主に係る四半期包括利益	△60	198

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項なし

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項なし

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとした。具体的には、財又はサービス提供前に係る工事費等について、入金時に一括して収益を認識する処理から、財又はサービスを提供する期間に応じて収益を認識する方法に変更していることや、一部の建設資機材の販売等について、顧客への財又はサービスの提供における役割が代理人に該当すると判断した場合、総額で収益を認識する処理から、純額で収益を認識する方法に変更していることなどである。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従い、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減している。この結果、利益剰余金の当期首残高は452百万円減少し、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,062百万円、営業費用は1,158百万円それぞれ減少、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ96百万円増加している。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示している。

また、再生可能エネルギー固定価格買取制度(以下「FIT制度」という。)のもとで、お客さまより回収する再生可能エネルギー発電促進賦課金を売上高に、費用負担調整機関に納付する再エネ特措法納付金を営業費用に計上していた。さらに、FIT制度に基づく再生可能エネルギー買取費用を購入電力料に計上するとともに、買取費用のうち当社負担額の増加分を再エネ特措法交付金として費用負担調整機関から收受し、売上高に計上していたが、収益認識会計基準等の適用に伴い、2021年4月1日に「電気事業会計規則等の一部を改正する省令」(令和3年経済産業省令第22号)が施行され、「電気事業会計規則」(昭和40年6月15日通商産業省令第57号)が改正されたことから、FIT制度については、収益及び費用の対象外となった。

改正電気事業会計規則の適用については、「電気事業会計規則等の一部を改正する省令」附則第2条第2項のただし書きに従い、過去の期間に改正後の規定を遡及適用している。

この変更に伴い、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の売上高は82,313百万円減少しているが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益へ与える影響はない。また、前連結会計年度の受取手形、売掛金及び契約資産が29,120百万円減少し、流動資産のその他が29,120百万円増加している。

なお、電力の小売全面自由化に伴う一般消費者保護のために料金規制経過措置が適用されているため、電気事業会計規則に従い、一般家庭等の顧客に対して検針日基準による収益の計上処理(毎月、月末以外の日に実施する計量により確認した使用量に基づき収益を計上する処理)を行っており、決算月に実施した計量の日から決算日まで生じた収益は翌月に計上している。